

「下地島空港活性化協議会」を開催しました

～羽田発着枠政策コンテスト枠獲得を契機に更なる空港活性化・観光地としての受皿強化を目指します～

下地島空港活性化協議会(会長:座喜味一幸)^(※1)は6月13日(火)に第12回「下地島空港活性化協議会」を開催しましたので、お知らせします。

【第12回 下地島空港活性化協議会】における主な報告・協議事項】

① 下地島空港の現況

- ・ 2022年度は全ての月で月間利用者数を更新し、年間利用者は過去最多となる35.9万人。
- ・ 2023年度も4・5月ともに過去最多であった2022年度の同月を上回る利用者数を記録。
- ・ 2023年7月1日よりスカイマーク福岡線が新規就航。
- ・ コロナによって運休となった国際線の再開、誘致に係る営業活動を推進。

② 羽田発着枠政策コンテスト関連

- ・ 羽田発着枠獲得の報告、コンテスト提案内容に対する取り組み状況について、評価検証委員^(※2)からのフィードバックの確認。
- ・ 観光地としての更なる受け皿強化を目指し、コンテスト提案内容に関する現状確認及び今後の取り組みについての協議。

(※1) 本協議会は、宮古諸島の受入環境整備や下地島空港の航空路線プロモーションなど、下地島空港活性化に資する各種事業の立案並びに実施することを目的として、2020年8月に宮古島市、沖縄県、(一社)宮古島観光協会、宮古島商工会議所、下地島エアポートマネジメント株式会社にて立ち上げた組織です。

(※2) 下地島空港活性化協議会や地域・航空会社の取り組み、羽田発着枠政策コンテストにて設定した目標の達成度等について、第三者より評価・検証いただくと共に、そのフィードバックを来年度の取り組みに活かす目的で、年に1度開催しております。

第12回協議会の冒頭、会長を務める宮古島市の座喜味市長より以下の通り挨拶がありました。

「羽田発着枠の配分継続が確定したことは、宮古圏域や沖縄全体の観光産業にとって非常に喜ばしい結果、これも一重に地元一丸で取り組んだ成果と考えており、改めて皆様に感謝申し上げたい。羽田発着枠の配分は2025年3月までだが、羽田線は宮古圏域にとって不可欠なものとなっており、2025年4月以降も継続できるよう、力を貸してほしい。

羽田、成田、神戸、那覇の既存路線に加えて、7月からは新たに福岡への直行便が就航するほか、台湾とのチャーター運航の可能性も高まってきていることから、引き続き、宮古圏域、下地島空港を盛り上げていくべく、地元一丸・官民連携で取り組んでいきたい。」

その後、下地島エアポートマネジメント株式会社より下地島空港利用状況について報告がありました。

- ・ 2022年冬期スケジュールの運航結果
- ・ 2023年夏期スケジュールの運航計画(新規路線のスカイマーク福岡線含む)
- ・ 2022年度及び2023年度の利用者数推移
- ・ 今後の航空営業戦略、既存路線利用促進に向けたプロモーション活動
- ・ 航空貨物取扱状況
- ・ 国際線誘致に向けた営業状況

続いて、協議会メンバーにて以下内容が行われました。

- ・ 下地島空港の活性化に向けた航空路線の維持・拡大に関する施策についての意見交換。
- ・ 羽田発着枠政策コンテストにて提案を行った取組みについての評価検証委員からのフィードバックの報告の実施。各取組みは観光地の更なる受け皿強化に資するものであることから、継続して協議を実施することの確認。

本協議会は、今後も官民一体となって下地島空港活性化に向けた施策を立案・推進し、宮古諸島のさらなる活性化を目指します。

【第12回下地島空港活性化協議会の様子】



■ 第12回「下地島空港活性化協議会」概要

日時： 2023年6月13日(火)10:00~11:30

場所： 宮古島市役所会議室

出席者： 「下地島空港活性化協議会」会員

座喜味 一幸 宮古島市長(協議会会長)

川上 睦子 沖縄県文化観光スポーツ部 参事監兼観光政策統括監(協議会事務局)

与那覇 隆 宮古島商工会議所 総務課長

石原 雄 (一社)宮古島観光協会 副会長

鶴見 弘一 下地島エアポートマネジメント株式会社 代表取締役社長